

## 令和 2 年度 秋サケ河川そ上予報

### 1 令和 2 年度における沿岸回帰予測

過去の幼稚魚調査の結果と昨年度の年齢別回帰数量から、令和 2 年度の本県秋サケ回帰数量を推定したところ、195 万尾、6,158 トンと計算され、令和元年度実績を上回る見込みです(表)。

表 令和 2 年度予測値と令和元年度実績値

	令和 2 年度予測値	令和元年度実績値
回帰尾数 (万尾)	195 (117~344)	77
回帰重量 (トン)	6,158 (3,601~11,178)	2,292

### 2 令和 2 年度河川そ上予測

河川毎に平成 18 年級以降の年齢別回帰尾数、3~5 年前の卵収容実績と過去の旬別河川回帰率を用いて時期別の河川そ上予測を行いました(図)。

各河川の旬別のそ上予測について、別表 1 のとおり令和元年度の実績値(上段)、令和 2 年度予測上限値(2 段目)、予測値(3 段目)、予測下限値(下段)をとりまとめました。

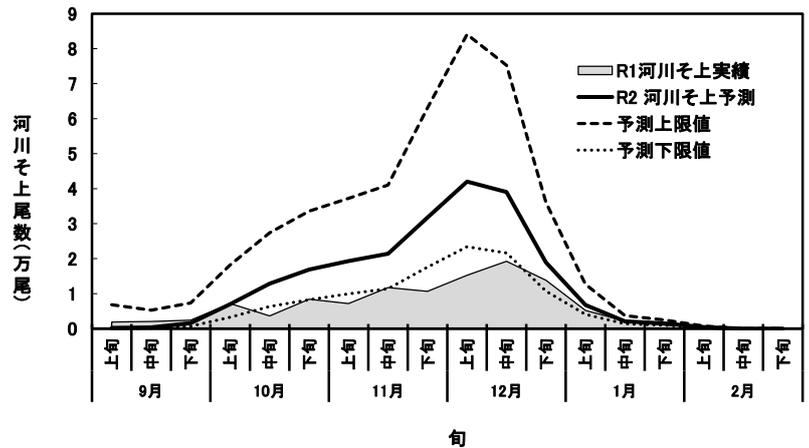


図 令和 2 年度旬別河川そ上予測と令和元年度旬別河川そ上実績

### 3 課題

河川そ上尾数は、12 月上旬をピークとする 22 万尾(下限値 12 万尾)となりました。雌の比率が 50%、雌 1 尾の卵数が 2,500 粒と仮定すると、雌を 80%使用しても 2 億 2 千万粒程度の採卵となり(別表 2)、河川そ上親魚のみで計画を達成することは困難と考えられます。

漁期を通じてそ上尾数が少ないと予測されるため、早期から海産親魚を使用できるよう、漁期前には関係者の協力体制を整えておくことが重要です。